

編集発行責任者 伊藤 洋

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL:<http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>

E-mail:aotokouhou@jikei.ac.jp

INDEX

01. 着任のご挨拶
02. 認定看護師による取り組み、医療安全推進週間を実施しました
03. 医療連携フォーラム2016を開催しました、「患者さんの声」について
04. 公開セミナーのご案内、自衛消防隊活動報告、編集後記

着任のご挨拶



リハビリテーション科
診療部長

小林 一成

昨年7月よりリハビリテーション（以下リハ）科診療部長として着任いたしました小林です。昭和59年に慈恵医大を卒業後、一貫してリハ診療に従事してまいりましたが、初期研修でお世話になった葛飾医療センターに30年ぶりに帰ってまいりました。リハ医療とは、患者さんに関わるすべての障害に対して包括的に医療を進めることにあると考えています。すべての障害とは、麻痺や拘縮などの身体的・機能的な障害だけではなく、日常生活における動作や行為の障害や社会生活を営む上での諸種の障壁が含まれますので、本学の理念“病気を診ずして病人を診よ”を具現化する診療科ということになります。私の専門は脳卒中および神経筋疾患のリハですが、この理念の下、11名の療法士と共にあらゆる障害に対して治療を行います。最新の痙縮に対するボツリヌス毒素治療も行いますので、何らかの障害でお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、なんなりとご相談いただき、地域のリハ治療の拠点としてご活用いただけますようお願い申し上げます。

認定看護師による取り組み

緩和ケア認定看護師

緩和ケア認定看護師とは、生命を脅かす疾患を持つ患者とその家族に対して疾患の早期から身体的、心理社会的問題、スピリチュアルな問題をアセスメントし、障害にならないように予防したり対処したりすることにより、QOLを改善するためのマネジメントを専門的に行う看護師です。つまり、「病気に伴う心と体の痛みを和らげること」を主とした看護の提供を行っています。



がん看護相談外来:月曜日から土曜日9時~16時

がん告知されたことによる不安、治療選択の迷い、痛みや鎮痛薬に関すること、治療上のさまざまな心配事などを抱えている患者さん、家族に対し、がん看護分野の認定・がん看護専門看護師が相談に応じています。

緩和ケアチーム活動

緩和ケアチームは、医師・専門看護師・薬剤師・栄養士・MSWで構成され、入院中のがん患者さんの身体的苦痛や、精神的苦痛が緩和され、その人らしい生活が送れるように、薬物療法や看護ケア、食事の工夫などに関する相談に応じています。

(金井みどり)



医療安全推進週間を実施しました



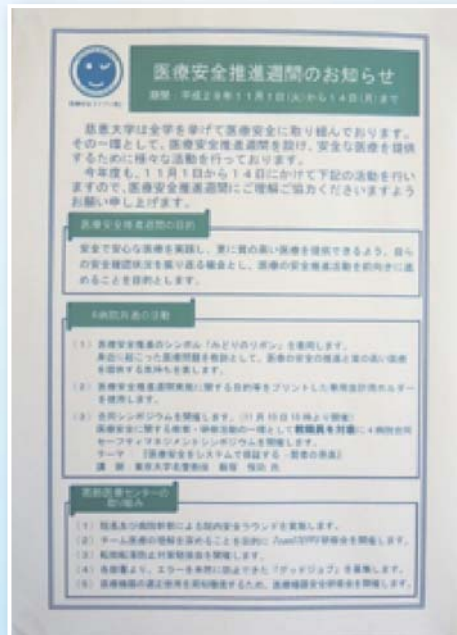
慈恵大学では、過去身近に起こった医療問題を1年に1度振り返ることで、風化させることなく、安全で質の高い医療を提供する努力を続けることを目的に、附属病院全てにおいて毎年11月1日から14日まで医療安全推進週間を実施しております。

当葛飾医療センターにおいても、11月1日(火)から14日(月)まで実施しました。本期間中は、当院に勤務する全ての教職員が安全のシンボルである「みどりのリボン」を着用し、気持ちを引き締め診療に取り組み、院内医療安全ラウンド、チーム医療実践のための研修会をはじめとする各種研修会等を実施しました。また、各部署において安全な医療を実践した事例を病院全体として共有する企画も行いました。

今後も教職員一同、安全で質の高い医療を提供するため努力をまいります。

私ども病院で働くスタッフ一同は、安全な医療を提供するため、細心の対策は講じてまいります。不確実な要素の多い医療現場では、私たちだけの注意では限界があることも事実です。医療チームの一員として患者さんやご家族が医療安全対策に参加することは馴染みがないと感じられるかもしれませんが、安全性をより一層高め、最善の医療を提供できる環境を作るためにご協力をお願いいたします。

●医療安全推進室



医療連携フォーラム2016を開催しました

葛飾医療センターは患者さんの紹介や医療に関する講演会を通じて、地域の医療機関（診療所や病院）との連携を行っています。この医療における連携を強化する目的で、平成28年11月12日（土）、当院にて「慈恵医大葛飾医療センター 医療連携フォーラム2016」を開催しました。当日は地域の医療機関の方々に多数ご参加いただきました。ご参加いただきました皆さまにはこの場をお借りしまして、あらためて御礼申し上げます。

7回目となります今回の医療連携フォーラムは、パネルディスカッション形式での開催をいたしました。パネリストには、産婦人科・駒崎裕美先生、外科・長谷川拓男先生、泌尿器科・山田裕紀先生による「葛飾医療センターで行われる鏡視下治療」をテーマに、それぞれの視点からご講演をいただきました。院内外から100名近くのご出席いただきました。

第二部の懇親会では当センターの各診療科診療部長の挨拶があり、ご参加いただいた先生方と懇親を深めました。普段は電話や紹介状でしか連絡をとれない先生方と直接会って話す機会を得て、「顔の見える医療連携の推進」を図ることが出来ました。

この医療連携フォーラムは次年度以降も開催予定です。さらに充実したフォーラムになるよう企画してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

「患者さんの声」について

●業務課 北里景子

当医療センターでは、皆さまからのご意見やご感想を受け取るご意見箱を院内に設置しております。皆さまの声を今後の病院運営の参考にさせていただき、より良い医療の提供に努めたいと存じます。また、皆様からの貴重なご意見に対して、病院ホームページおよび、院内医療連携センター室前の掲示板で回答させていただいております。

過去の「患者さんの声」

●ご意見（平成28年4月）

自転車を守る際、可動式の駐輪場は不安定なので、安定した駐輪場に変えてほしい。

回答

ご不便をおかけしまして、申し訳ありません。
平成28年3月末より、可動式の駐輪場を平置きの駐輪場に変更いたしました。
貴重なご意見ありがとうございました。

●ご意見（平成28年10月）

予約日に来院できず、予約外での受診になりました。
診察までの待ち時間がかなりかかったので、改善してほしいです。

回答

お待たせして申し訳ありません。
当院では、ご予約の方を優先しているため、予約外で受診される患者さんには、長くお待ちいただく場合があります。また、診療に長時間かかる患者さんが重なった時などには、予約診療の方についても遅れる場合がございます。
長くお待たせする場合には、受付よりご案内させていただくと共に、離席し易いようポケットベルの貸し出しをするなど、患者さんのご負担の軽減に繋がるよう対応させていただいております。
診察の進行状況に関しては、各外来で適宜アナウンスさせていただきますので、ご理解の程宜しく願いいたします。

公開セミナーのご案内

参加費

無料

定員

先着150名

テーマ

加齢黄斑変性

～放置すると失明につながる病気 あなたは大丈夫?～

日時

平成29年2月18日(土) ●14:00～15:30 (13:00開場、整理券配布開始)

会場

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 5階講堂

司会

眼科 診療部長 たかはし げんいちろう 高橋 現一郎

演者・演題

①眼科 診療医長 はやし たかあき 林 孝彰②眼科 視能訓練士 そうとめ けいすけ 早乙女 慶輔

加齢黄斑変性のすべて!

眼科でどんな検査をするの?

「視力低下を引き起こす怖い病気」

後援:(一社)葛飾区医師会 後援・協賛:葛飾区、東京慈恵会医科大学同窓会



自衛消防隊活動報告

慈恵医大葛飾医療センターは災害拠点病院に指定されており、災害時における地域医療の中核を担っていることから、日頃より防火防災対策にも注力しております。年間2回の防火訓練のほか、葛飾区等と共同で大規模防災訓練も実施しております。当医療センターでは、平成24年1月にリニューアルし、新病院での診療を開始しておりますが、水害対策や地震に強い免震構造の建物にするだけでなく、火災発生時に建物の東西を防火区画により火災の延焼を防ぐ構造を採用しております。また、職員による自衛消防隊を組織し、初期消火活動など防火防災にかかわる体制の強化を図っております。

今般9月12日(月)に葛飾区総合スポーツセンターで開催された「自衛消防訓練審査会」にて、当医療センターの自衛消防隊(放射線部 高田瑞希、リハビリテーション科 河合はるか)は2号消火栓の部にエントリーし、優勝を収めることができました。3年連続の優勝実績となります。

葛飾医療センターでは、引き続き地域の医療に貢献するとともに災害発生時において機能できる病院として、防火防災対策の強化に努めてまいります。

新年明けましておめでとうございます。

今年の冬の訪れは、いつもより早かったように思います。

インフルエンザも流行期に入ったとの情報発信もあり、うがい、手洗、マスクなどで感染しないよう予防の徹底を心がけましょう。

今回は医療連携フォーラム・医療安全推進週間等の活動を紹介いたしました。葛飾医療センターは地域の先生方と顔の見える連携を図り、地域の皆さまには健康増進や疾病予防の情報提供に努め、地域の医療発展にこれからも尽力いたします。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

編集後記